

**TAC**

For the USCPA Exam

---

---

# USCPA

---

---

Auditing and Attestation  
(AUD) Vol.1



For The CPA Evolution,  
Exams Scheduled  
From January 1, 2024  
Ver.6 テキスト

AUD 

## <<テキストについてのご注意>>

このテキストは米国公認会計士試験を目指す日本人を対象として書かれたものです。米国公認会計士試験は、すべて英語による試験ですが日本人が内容を理解するにあたっては、日本語の方が効果的であることは言うまでもありません。そのためテキストは、米国の各種会計基準（U. S. GAAP 等）を日本の企業会計基準委員会等が公表している実務指針、監査基準等をもとに日本語で解釈しております。

日本語と英語は言語が異なる関係上、どうしても解釈に無理が発生してしまうこともございますが日本の企業会計審議会が米国の各種会計基準を参考にしつつ日本の基準を作成していることを考えますと、英語の解釈として企業会計審議会の解釈が一番妥当であると考えられます。また、日本の会計基準を逸脱する表現はかえって日本の会計を理解していらっしゃる方に誤解を与える可能性がございますし今後、米国公認会計士の資格を活かして日本において業務をされる方が多い事を考えますと、日本の会計基準、監査基準の用語にも慣れ親しんでいただく事も重要であると考えられます。

以上より英語で原文を解釈した場合、テキストの表現に違和感を覚えることもあるかもしれませんが、前述のとおり、本試験は英語で実施されますので最終的には、英語のままの状態を理解できるまで習熟を図ってください。

皆様がこのテキストを活用することによって合格を勝ち取られることを祈念しております。

**U.S. CPA**  
*Auditing and Attestation Vol.1*  
**Textbook**  
**Contents**

<b>1. Overview (1)</b>	<b>CORE : AUD</b>	1
1. CPA の主な業務		2
2. Financial Statements Audits (財務諸表監査)		3
3. Generally Accepted Auditing Standards (GAAS)		8
<b>2. Overview (2)</b>	<b>CORE : AUD</b>	15
1. Assertions (アサーション)		16
2. Audit Procedures (監査手続)		27
3. Audit の流れ		33
<b>3. Overview (3)</b>	<b>CORE : AUD</b>	35
1. Audit Report (監査報告書)		36
<b>4. Overview (4)</b>	<b>CORE : AUD</b> <b>ISC</b>	51
1. Completing the Audit (Field Work の終了)		52
2. Tests of Controls と Substantive Tests		53
3. Internal Control (内部統制) の意義		59
<b>5. Overview (5) – 取引サイクル –</b>	<b>CORE : AUD</b>	69
1. Revenue Cycle～Sales and Cash Collections～		71
2. Expenditure Cycle～Purchasing and Cash Disbursements～ and Production Cycle		77

3. Payroll Cycle～Personnel Department and Payroll Accounting～	81
4. Financing Cycle と Investing Cycle	83
<b>6. Overview (6)</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">CORE : AUD</span>	85
1. Audit Planning (監査計画の策定)	86
2. Auditor が準拠すべき要求事項と Quality Control (品質管理)	88
<b>7. Risk-Approach</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">CORE : AUD</span>	103
1. Materiality (重要性)	104
2. Risk-Approach (リスク・アプローチ)	111
3. Audit Documentation (監査調書)	127
<b>8. Engagement</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">CORE : AUD</span>	135
1. 監査契約の締結 ～ Engagement ～	137
<b>9. Audit Planning</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">CORE : AUD</span>	147
1. Overall Strategy (監査戦略) の策定	150
2. Audit Plan (監査計画) の策定	155
3. Risk Assessment の実施	156
4. Using the Work of Others (他者による業務の利用)	169
(1) Internal auditor (内部監査人)	
(2) Service organization (受託会社)	
(3) その他	
<b>10. Fraud and Noncompliance</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">CORE : AUD</span>	179
1. Fraud (不正) と Noncompliance (準拠違反)	180
2. Consideration of Fraud (不正の検討)	191
3. Consideration of Noncompliance (準拠違反の検討)	201
<b>11. Audit Procedures</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">CORE : AUD</span>	209
1. Audit procedures (監査手続)	210
2. Analytical Procedures (分析的手続)	219

<b>12. Tests of Controls and Substantive Tests 総論</b>	<b>CORE : AUD</b>	231
1. Tests of Control (運用評価手続)		233
2. Substantive Tests (実証手続)		239
<b>13. Revenue Cycle</b>	<b>CORE : AUD</b>	249
1. Revenue Cycle～Sales and Cash Collections～の流れと Controls		251
2. Revenue Cycle に関する Substantive Tests		269
<b>14. Expenditure Cycle</b>	<b>CORE : AUD</b>	293
1. Expenditure Cycle～Purchasing and Cash Disbursements～ and Production Cycle における Controls		295
2. Expenditure Cycle に関する Substantive Tests		311
<b>15. Other Transaction Cycle</b>	<b>CORE : AUD</b>	325
1. Payroll Cycle～Personnel Department and Payroll Accounting～		327
2. Financing Cycle (資金調達関係)		339
3. Investing Cycle (設備投資と有価証券投資)		345
4. Related Topics (関連論点)		360
(1) Related party transaction (関連当事者取引)		
(2) Accounting estimate (会計上の見積もり)		
(3) Using the work of a specialist (専門家の作業の利用)		
<b>単位認定試験について</b>		371

# 1. Overview (1)

---

## Objectives

本章では、**financial statements audit**（財務諸表監査）とはどのようなものか、そのイメージをつかむことが中心的な目的です。特に、**auditor**（監査人）は、**financial statements** の作成に関する責任を負っているのではなく、**financial statements** に関する **opinion** の表明について責任を負っていることに注意してください。

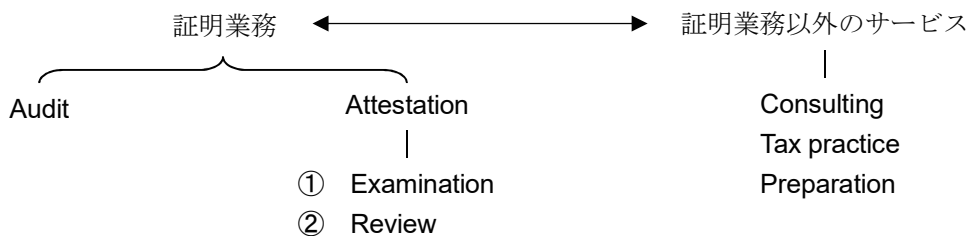
## Key Topics

CORE AUD

1. CPA の主な業務
2. **Financial Statements Audits**（財務諸表監査）
3. **Generally Accepted Auditing Standards**（GAAS）

## 1. CPA の主な業務

CPA（公認会計士）の最も大きな役割は、証明業務です。証明業務とは、**assertion**（主張・言明；ある主体が行った経済活動などに関する表現）が、設定された基準に従っているかどうかを確かめるために、第三者が **assertion** に関する **evidence**（証拠）を客観的に入手・評価し、その結果を利害関係をもつ利用者に伝達する体系的なプロセスをいいます。そして、この証明業務のうち、次節で述べるように、**financial statements** について高いレベルで保証するのが **financial statements audit**（財務諸表監査）であり、それ以外の証明業務を **attestation** といいます。

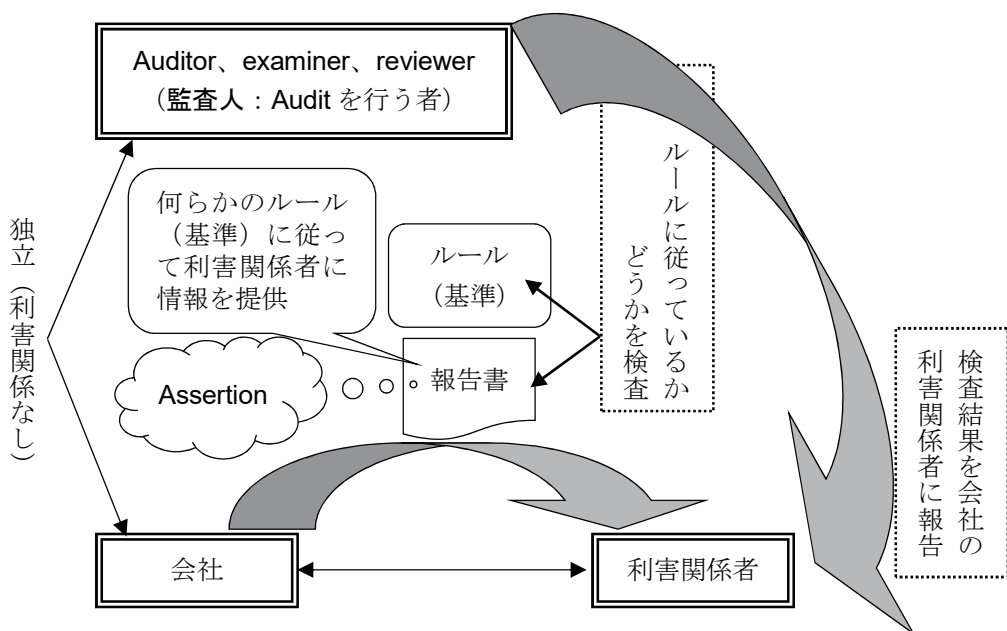


さらに、証明業務以外のサービスも行うことができ、具体的には **consulting**（コンサルティング）、**tax practice**（税務業務）、**preparation**（財務諸表の作成業務）があります。なお、**financial statements audit** 以外は、第22章にて取り扱います。

## 2. Financial Statements Audits (財務諸表監査)

### (1) Financial statements audits (財務諸表監査) の意義

前ページで述べたように、保証業務として、financial statements について行うのが financial statements audit (財務諸表監査) です。このように述べると難しく感じと思いますが、順番に整理しましょう。



まず、FAR で述べたように、会社の **stakeholders** (利害関係者: stockholders、investors、bankers、creditors など) は、今後株式を購入するか、売却するか、資金を貸し付けるかどうかなどの意思決定を行う材料として、会社の状況に関する情報が必要になります。これを受け、会社は **financial statements** を作成し、それを通じて **results of operation** (経営成績) や **financial position** (財政状態)、**cash flows** (キャッシュ・フローの状況) に関する情報を提供することが義務づけられています。



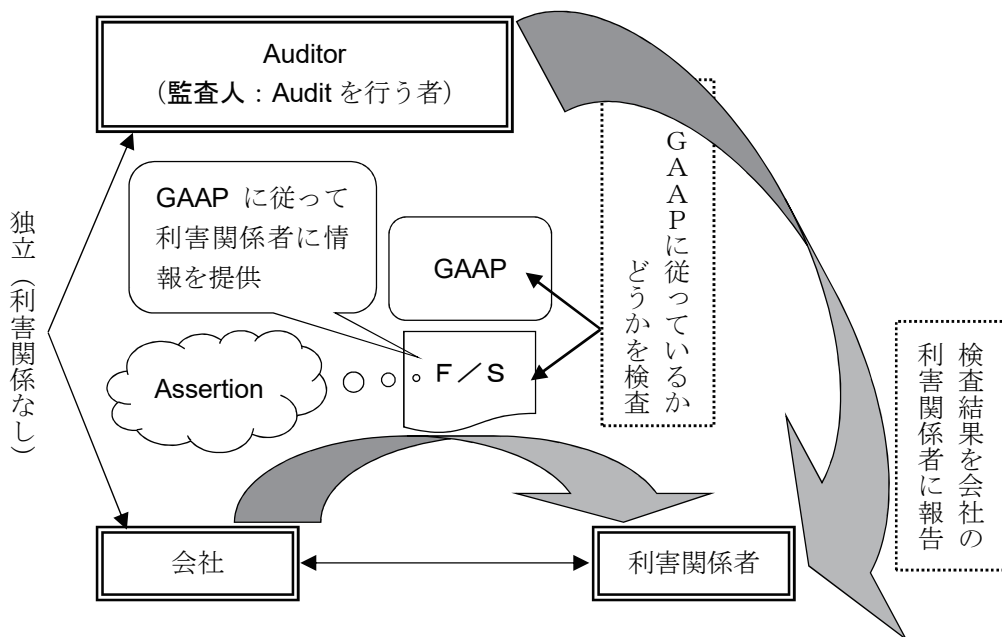
ということは、上記のようにある主体が行った経済活動などに関する表現を **assertion** といいますが、**management が表明している assertion は financial statements であるといえます。**つまり、**financial statements** により、たとえば「自社にはこれだけの **assets** がある」ということを表現しているわけです<sup>1</sup>。

しかし、このような **assertion** が適正なのかどうか分らなければ、**stakeholders** は安心して **financial statements** を利用することができません。意図的に歪められている可能性や、単純なミスにより間違っているかもしれないからです。そこで、

- ① **Management (経営者) が作成した financial statements が**
- ② **適正 (present fairly) か否かを**
- ③ **第三者である auditor (監査人 (監査を行う者)) が**
- ④ **検査**
- ⑤ **報告**

する必要があります。そして、この業務のことを **financial statements audit** といのです。

なお、**financial statements audit** は、**CPA (公認会計士)** によって行われます。



<sup>1</sup> <参考> 一方で、auditor の assertion は後述する audit opinion といえます。

**<参考>**

Audit には、CPA による audit だけではなく、さまざまなものがあります。たとえば、会社内部の者である internal auditor（内部監査人）によって営まれる audit や、governmental auditor によって営まれる audit（政府による監査）は、CPA 以外の者により行われる audit の代表例です。また、CPA が行うこともあります。financial statements audit ではないものとして、たとえば法規制などに準拠しているかどうかの audit である compliance audit（準拠性監査）というものもあります。

なお、このようなさまざまな audit に対応し、auditor による活動に影響を与える様々な職業規制機関が存在しています。それには、たとえば次のようなものがあります。

- AICPA（The American Institute of Certified Public Accountants：米国公認会計士協会）
- PCAOB（The Public Company Accounting Oversight Board：公開会社会計監視委員会）
- FASB（The Financial Accounting Standards Board：財務会計基準審議会）
- GASB（The Governmental Accounting Standards Board：政府会計基準審議会）
- FASAB（The Federal Accounting Standards Advisory Board：連邦会計基準諮問委員会）
- SEC（The Securities and Exchange Commission：証券取引委員会）
- IIA（The Institute of Internal Auditors：内部監査人協会）
- IASB（The International Accounting Standards Board：国際会計基準審議会）
- IFAC（The International Federation of Accountants：国際会計士連盟）
- IAASB（The International Auditing and Assurance Standards Board：国際監査・保証基準審議会）

## (2) Financial statements audits と financial statements の作成—二重責任の原則—

改めて financial statements audit の意義や役割を確認しましょう。

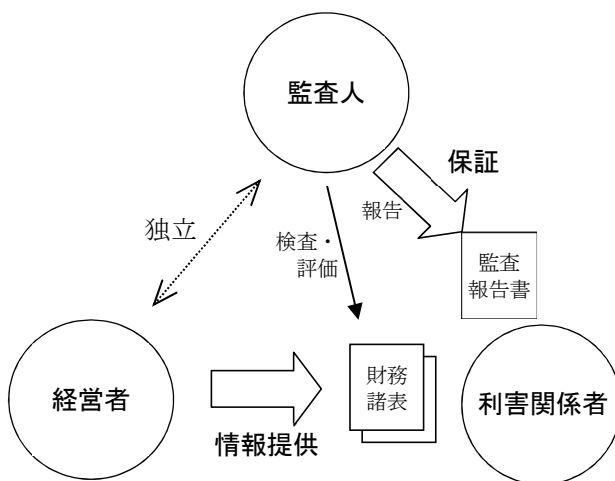
まず、auditor は、financial statements が適正かどうかを検査・報告するのです。ここで、financial statements audit において、auditor による報告は、audit report (auditor's report、監査報告書) と呼ばれる文書により行われます。Auditor は、

- ◇ audit report において、
- ◇ financial statements の fairness (適正性：financial statements が GAAP に従って作成されているかどうか) に関する opinion (意見：これを audit opinion (監査意見) と呼びます) を表明することで
- ◇ stakeholders に対して報告を行う

のです。

そして、auditor が「この financial statements は適正である」という opinion を表明することで、stakeholders は意思決定の材料として安心して financial statements を用いることができます。

言い換えれば、audit report を通じ、auditor が自ら集めた証拠に基づいて financial statements の fairness に関する opinion を表明することにより、意思決定情報としての financial statements の credibility (信頼性) を保証することが、financial statements audit の目的 (機能) なのです<sup>2</sup>。



<sup>2</sup> A financial statement audit involves an examination of the financial statement for the purpose of expressing an opinion on whether the financial statements are presented fairly in conformity with established criteria – usually GAAP. The auditor's report gives credibility to the financial statements. The auditors, as a group independent of management, have an objective view and can report on a company's activities without bias or conflict of interest. Without a report from an independent auditor, a company's financial statements would be meaningless, because the public would have little faith in financial statements issued by the inherently biased company.

ここでひとつ注意しなければならないのは、上記のように audit report を通じて financial statements の credibility の保証を行う (fairness に関する opinion を表明する) ことが auditor の役割であって、financial statements の作成は auditor の役割ではないこと (financial statements を作成するのは、management であること) です<sup>3</sup>。

このように、**financial statements の作成に関する responsibility (責任) は management にあり、audit opinion に関する責任は auditor にあるという責任と役割の分担を、二重責任の原則と**いいます。この責任と役割の分担があるため、たとえば management が auditor に financial statements の作成に関して相談したり、auditor が adjustments (adjusting entries) を提案したとしても、その採否の責任は management にあることとなります<sup>4</sup>。

	責 任	役 割
Management	Financial statements の作成	Financial statements などを通じた情報提供
Auditor	Audit opinion の表明 (GAAS (→次節) に従って financial statements を検証すること／検証の結果を audit report を通じて表明すること)	Management が提供した情報の credibility の保証

<sup>3</sup> The financial statements of an enterprise are prepared by the management of the enterprise, not by the independent auditor. Further, the financial statements are the product and property of the enterprise; the independent auditor merely audits and expresses an opinion on them.

<sup>4</sup> <参考> なお、financial statements audit は、あくまでも financial statements の fairness に関する意見表明が目的ですから、経営に関する efficiency や effectiveness に関する報告を目的としているわけではありません。

### 3. Generally Accepted Auditing Standards (GAAS)

#### (1) Generally Accepted Auditing Standards (GAAS)

さて、それでは management や auditor は、(最低でも)どのように役割を果たせばいいのでしょうか。たとえば、management が financial statements を作成する際、どのように作成すれば「適正」であり、責任を果たしたことになるのでしょうか。

この点については、企業内容の開示や audit が社会一般に与える影響はきわめて大きいので、企業を取り巻く種々の stakeholders の誰もが納得できる制度として成立するように一定のルールが設けられています。

##### ① Generally accepted accounting principles (GAAP)

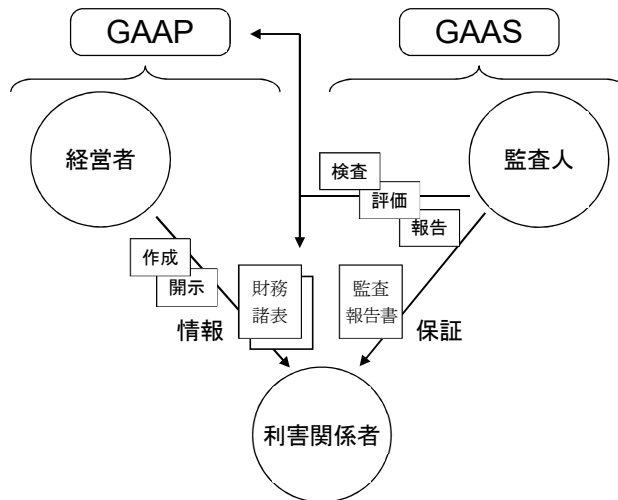
FAR で学習済みですが、GAAP (一般に公正妥当と認められる企業会計の基準)とは、企業が financial statements の作成のために行う会計処理や開示のルールであり、具体的には FASB accounting standards codification をいいます。GAAP は、企業にとっては financial statements の作成にあたってのルールですが、auditor にとっては企業が行った会計処理や開示の適否を判断するための判断基準となります。

なお、GAAP に従うことによって逆に financial statements の利用者の誤解を招くおそれがあると判断した場合には、例外的に GAAP からの departure (GAAP に従わないこと)が認められます。このような例外の例としては、new litigation (新しい法令が制定された場合)や new form of business transaction (新しい商取引形態が出現した場合)が挙げられます。ただし、この場合には、GAAP に従わないことの正当性を説明しなければなりません。

## ② Generally accepted auditing standards (GAAS)

GAAS（一般に公正妥当と認められた監査の基準）とは、audit に関する社会的合意を得たルールをいいます。

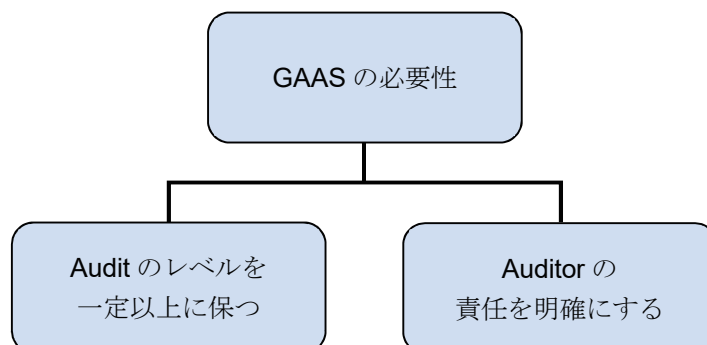
企業内容の開示と監査の制度における GAAP と GAAS の位置付けは、以下のように図示することができます。



## A. GAAS の必要性

Auditor の能力と経験には差があるため、financial statements audit にあたり、すべてを auditor の主観的な判断に委ねたのではその証明水準が一定に定まらないことになってしまいます。そこで、一定の証明水準を具備する audit が常に実施されるように、financial statements audit にあたり auditor が準拠すべき社会的な規範として GAAS を設定することが必要となるのです。また、auditor の責任の限界（どこまで責任を負うか）を明らかにするためにも、GAAS が必要となります。

このように、簡単に言えば audit のレベルを一定水準以上に保つため、そして auditor の責任を明確にするために GAAS が必要とされ、実際に作成されています。ですから、逆に言えば、auditor が GAAS を守らない (departure) ときには、それを正当化するだけの理由付けが必要になります。



## B. GAAS の設定主体

GAAS について、従来は AICPA の内部の auditing standards board (ASB) が公表する Statements on Auditing Standards (SAS) が中心であり、またそのほかに、SAS の解釈指針などがありました。言い方を変えれば、GAAS の設定主体は ASB だったわけです。

これに対し、SOX 法適用に伴い、現在では、PCAOB (The Public Company Accounting Oversight Board : 公開会社会計監視委員会) が設立され、issuer (SEC 登録企業 (public company と考えてかまいません) に関する auditing standards の設定 (SAS の改訂・改編も含まれます) を行っています。PCAOB が作成した auditing standards は、issuer に対する audit にのみ強制適用され、nonissuer (非上場企業) に対する audit には強制適用されないわけです。

ですから、多少ややこしいのですが、**issuer に関する auditing standards の設定主体は PCAOB<sup>5</sup>、nonissuer に関する auditing standards の設定主体は従来どおり ASB ということになります。**

なお、PCAOB は、AICPA (ASB) が作成した auditing standards を必要に応じて修正しながら採用しています。Auditing standards をすべて作り直すわけではありません。その一方で、新しい auditing standards も作成しています。

対 象	Auditing standards	設定主体
SEC 登録企業 (public company と考えるとかまいません) 【issuer】	従来の GAAS (SAS) + PCAOB auditing standards	PCAOB
非上場企業 【nonissuer】	従来の GAAS (SAS)	AICPA (ASB)

### <参考> GAAS HIERARCHY SUMMARY

I. PCAOB standards (Issuer) / SASs (Noissuer)
PCAOB standards SASs
II. Interpretive publications
Auditing interpretations of GAAS AICPA Audit and Accounting Guides AICPA Auditing Statements of Position
III. Other auditing publications (論文など)

<sup>5</sup> Public accounting firms must register with the PCAOB in order to audit a public company. Registered firms are subject to Board inspection, disciplinary proceedings, and sanctions.

**基本問題 1**

- (1) Which of the following has primary responsibility for the fairness of the representations made in financial statements?
- a. Client's management.
  - b. Independent auditor.
  - c. Audit committee.
  - d. AICPA.
- (2) The most important benefit of having an annual audit by a CPA firm is to:
- a. Provide assurance to investors and other outsiders that the financial statements are dependable.
  - b. Enable officers and directors to avoid personal responsibility for any misstatements in the financial statements.
  - c. Meet the requirements of government agencies.
  - d. Provide assurance that illegal acts, if any exist, will be brought to light.
- (3) Which of the following provides the most authoritative guidance for an auditor of a nonissuer?
- a. An AICPA audit and accounting guide that provides specific guidance with respect to the accounting practices in the client's industry.
  - b. A Journal of Accountancy article discussing implementation of a new standard.
  - c. General guidance provided by a Statement on Auditing Standards.
  - d. Specific guidance provided by an interpretation of a Statement on Auditing Standards.
- (4) An auditor of a nonpublic company must conduct the audit in accordance with:
- I. ASB standards.
  - II. PCAOB standards.
- a. I.
  - b. Both I and II.
  - c. Either I or II, but not both.
  - d. II.



【解答と解説】

- (1) (a) **Financial statements** に含まれている表明についてはクライアントの経営者が主たる責任を負います。Auditor は **GAAS** に従って **audit** を実施したことについての責任を負うことになります。
- (2) (a) 会計事務所によって **audit** を実施することの最も重要な便益は、投資家その他の企業外部の **stakeholders** に対して **financial statements** が信頼に値することを保証することにあります。
- (3) (c) **Non-issuer** について、**GAAS** の構成は次のようになっています。

I . SASs
SASs
II . Interpretive publications
Auditing interpretations of GAAS
AICPA Audit and Accounting Guides
AICPA Auditing Statements of Position
III . Other auditing publications (論文など)

以上より、c が正解となります。なお、**Journal of Accountancy** は、有名な会計雑誌であり、**other auditing publications** に該当します。

[本問は Becker にある問題です。]

- (4) (a) **Non-issuer** に関する **audit** は、**SAS** 等に基づいて行われます。なお、**PCAOB** については、任意で従って行われる場合もありますが、強制はされていません。
- [本問は Becker にある問題です。]

**1. Overview (1)  
Terminology**

<input type="checkbox"/>	1	audit	監査
<input type="checkbox"/>	2	financial statements audit	財務諸表監査
<input type="checkbox"/>	3	auditor	監査人
<input type="checkbox"/>	4	audit report	監査報告書
<input type="checkbox"/>	5	fairness	適正性
<input type="checkbox"/>	6	audit opinion	監査意見
<input type="checkbox"/>	7	GAAS	一般に公正妥当と認められた監査の基準

## 2. Overview (2)

---

### Objectives

本章では、audit opinion の表明に至る証拠収集プロセスについてみていきます。特に、audit evidence（監査証拠）、audit procedures（監査手続）を中心に理解してください。第11章などで audit procedures の具体的適用をみていきますが、その前提知識として、audit procedures のイメージをつかんでください。

### Key Topics

CORE AUD

1. **Assertions**（アサーション）
2. **Audit Procedures**（監査手続）
3. **Audit** の流れ

## 1. Assertions (アサーション)

第1章の冒頭において、audit では「④検査、⑤報告」が行われると述べました。そこで、第2章では「④検査」の概要を述べ、第3章では「⑤報告」の概要を述べていきます。

本章では、「④検査」の概要として、どのように opinion を表明する根拠が得られていくかというプロセスをみていきます。

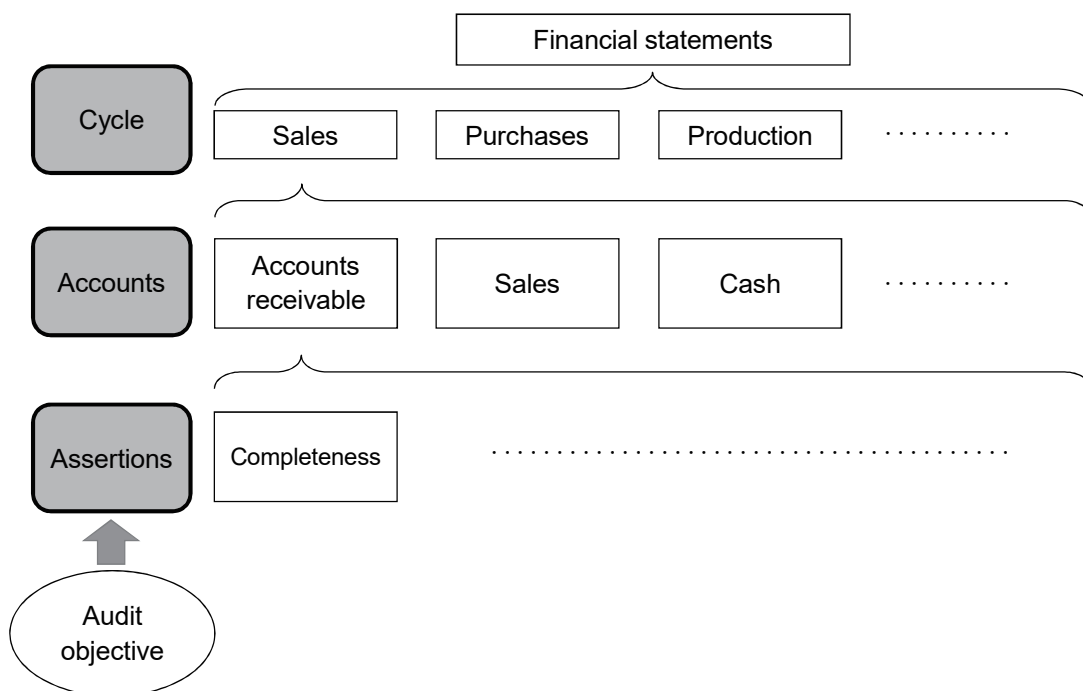
### Example

仮に、あなたはCAT社の audit を引き受け、実際にCAT社の financial statements を調べてみるようになったとしよう。CAT社は、financial statements を提出してきた。さて、提出された financial statements をじっと眺めていて、それが適正かどうかわかるだろうか??

### (1) Assertion と audit objective

すでに述べたように、management が表明している assertion は、financial statements です。そして、auditor は、financial statements という management の assertion の当否を判定し、audit opinion を表明します。この際、auditor は、個々の transaction や account ごとにではなく、financial statements の全体としての fairness に関する opinion を表明することが求められています。

しかし、financial statements 全体が適正かどうか、突然判定することは不可能です。そこで、audit にあたっては、financial statements をバラしていき、立証可能なレベルまで分解します。具体的には、financial statements は種々の取引の cycle (sales、purchase など、詳しくは第4章参照) に関連する account の集合体であり、また個々の account についても management はそこにさまざまな assertion を含めています (21ページ参照) ので、その「個々の account ごとの assertions」について立証することになります。Auditor は、evidence を集めるためにさまざまな examination (検証) を行いますが、この際には「個々の account ごとの assertions」を **audit objective (監査目標：直接的に立証すべき対象)** と捉えることになるのです。



### <Financial statements assertion の種類>

名 称	意 義
① Completeness	記録されるべき勘定残高、取引、および開示情報がすべて財務諸表に記録されていること（漏れがないこと）。
② Cutoff	取引および事象が、適切な期間に記録されていること（期間帰属が適切であること）。
③ Valuation, Allocation, and Accuracy	勘定残高、取引および開示情報が公正かつ適切な価額で評価・記録されているとともに、そのための修正が適切に記録されていること。
④ Existence and Occurrence	勘定残高が一定日現在、現に存在していること。あるいは記録された取引および事象が一定期間に発生しているとともに、企業に帰属していること。
⑤ Rights and obligations	記録された資産に係る権利および記録された負債に係る義務は、当該日付において企業に帰属するものであること。
⑥ Understandability and classification	取引および事象が、適切な勘定に記録されていること。財務情報が適切に表示されているとともに、開示が明確になされていること。

## (2) Account ごとの assertion

### Example

CAT社の **financial statements** を眺めていても適正かどうかわからないので、個々の **account** ごとに適正かどうかを検討することにした。

さて、それでは個々の **account** が適正かどうかは、どう考えればよいだろうか。つまり、どのような状態であれば、その **account** は適正といえるだろうか・・・。



まずは **accounts receivable** を例にとってみていきましょう。

**Accounts receivable** が適正かどうかは、主に次の点を検証できればよいでしょう。

- ① すべての **accounts receivable** を漏れなく計上していること（「実在する **accounts receivable** があるにもかかわらず、それが **accounts receivable account** に含まれていない」ということがないこと）
- ② 適正な評価がなされていること（回収不能と予想される額については、**allowance for doubtful account** という、**accounts receivable** の **contra account** が適正な額で計上されていること）
- ③ **Accounts receivable** がCAT社のものであること（たとえば、「債権譲渡により **receivable** を他社に譲っているにもかかわらず、**accounts receivable account** に計上されつづけている」とか、「期末『前』に返品されているにもかかわらず、**accounts receivable account** に計上されつづけている」ということがないこと）
- ④ 架空の **accounts receivable** を計上していないこと

以上の項目について、重大な問題がなければ、**accounts receivable** は適正だといえそうではないでしょうか？

Auditor が立証したい対象（取引や事象、勘定残高、あるいは開示情報）によって、立証すべき assertion は異なります。先に述べた6つの assertion を立証したい対象ごとに分類すると、次のように整理できます。

対 象	名 称	意 義
Transactions and Events	① Completeness	記録されるべき取引および事象が、すべて記録されていること（漏れがないこと）。
	② Cutoff	取引および事象が、適切な期間に記録されていること（期間帰属が適切であること）。
	③ Accuracy	記録された取引および事象に関する金額その他の情報が、適切に記録されていること（金額その他の情報が正確に記録に反映されていること）。
	④ Classification	取引および事象が、適切な勘定に記録されていること。
	⑤ Occurrence	記録された取引および事象が一定期間において発生しているとともに、企業に帰属していること。
Account Balances	① Completeness	記録されるべき資産、負債および資本が、すべて記録されていること（漏れていないこと）。
	② Allocation and valuation	資産および負債が、適切な価額で評価されているとともに、そのための修正が適切に記録されていること。
	③ Rights and obligations	記録された資産に係る権利および記録された負債に係る義務は、当該日付において企業に帰属するものであること。
	④ Existence	記録された資産および負債が、一定日現在、現に存在していること。
Presentation and Disclosure	① Completeness	Financial statements に含まれるべきすべての開示情報が含まれていること（漏れがないこと）。
	② Understandability and classification	財務情報が適切に表示されているとともに、開示が明確になされていること。
	③ Rights and obligations, and occurrence	開示された取引および事象が、実際に発生しているとともに、企業に帰属していること。
	④ Valuation and accuracy	財務情報その他の情報が、適正に開示されているとともに、適切な金額で開示されていること。

**(3) Audit evidence (監査証拠)**

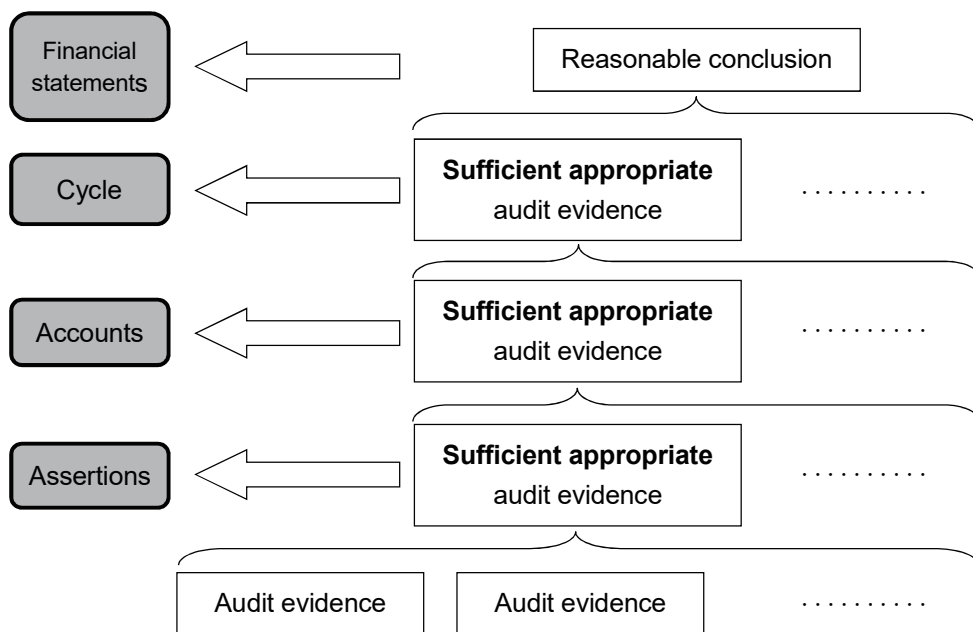
監査の実施における全般的要求(General requirements related to the conduct of the audit)で定められた監査証拠と監査リスクへの要求

“Sufficient Appropriate Audit Evidence and Audit Risk”

十分かつ適切な監査証拠と監査リスク

“To obtain reasonable assurance, the auditor should obtain sufficient appropriate audit evidence to reduce audit risk to an acceptably low level and thereby enable the auditor to draw reasonable conclusions on which to base the auditor's opinion.”

reasonable assurance (合理的な保証)を得るために、監査人は、Audit risk (監査リスク)を許容可能な程度に引き下げ、auditor's opinion (監査意見)の基礎となる reasonable conclusions (合理的な結論)を形成することを可能とする、sufficient (十分)かつappropriate (適切)なaudit evidence (監査証拠)を入手しなければならない。

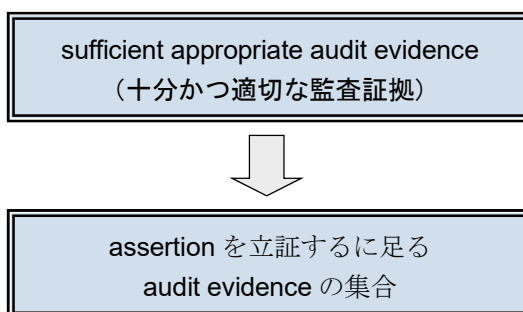




## ① Sufficient appropriate audit evidence (十分かつ適切な監査証拠)

Auditor は、audit objective となる assertion について、企業内外に存在する様々な事物を立証の素材として選択・入手し、何らかの手続を適用し、そこから assertion の当否に係る判断の根拠として audit evidence (監査証拠) を入手します。

とはいえ、1つの audit evidence によって1つの assertion の当否を立証できるとは限りません。言い換えれば、assertion は、確かな判断を下せるだけの audit evidence を集積してはじめて立証されるものであり、auditor は必要に応じ複数の audit evidence を収集するのです。ここで、**assertion を立証するに足る audit evidence の集合を、sufficient appropriate audit evidence (十分かつ適切な監査証拠) といいます。**



Sufficient appropriate audit evidence は、次の2つの要件を満たしている必要があります。

## [A] Sufficiency (量的十分性)

**Assertion の立証に必要な量を有していることを意味します。**

## [B] Appropriateness (適切性 =信頼性・適合性)

**Appropriate とは、audit evidence が、reliable で relevant であることを意味します。**すなわち、assertion の立証に必要な信頼しうる証拠である (=reliable、信頼性) かつ、assertion の立証に適合している (=relevant、適合性)、ということです。

なお、多くの場合、auditor は、convincing (確信的) というよりむしろ **persuasive (説得的な) 証拠に依拠することになります。**

## &lt; Persuasiveness &gt;

財務諸表は複雑であり、監査の時間的・資金的な制約もあるなか、auditor が全ての情報・データを検証し、その財務諸表が適正であると確信的に保証できるようなことはありません。そこで auditor は収集する監査証拠の persuasiveness を高め、assertion を立証するに足る十分かつ適切な監査証拠を、より効率的に収集できるように心掛けます。

この persuasiveness は概念的で漠然としていますが、実施する audit procedures の実施内容・実施時期・実施範囲によって監査証拠の persuasiveness を高めることができるといえます。詳しくは次節の (3)入手される audit evidence の証明力で学習します。

ここで、**[A]**と**[B]**の間には **inverse relationship** があります。つまり、ある audit evidence が appropriate であればあるほど、auditor が必要とする audit evidence の「量」は少なくとも sufficient appropriate となり、逆に、ある audit evidence があまり appropriate でなければ、auditor が必要とする audit evidence の「量」が多くなければ sufficient appropriate とはなりません。

なお、**appropriate** であるか、また、**sufficient** であるかは、**auditor の professional judgment** に委ねられます。

以上、sufficient appropriate audit evidence とは、assertion に適合し、auditor が必要とする証明力を有し、かつ過不足のない audit evidence のことをいうのです。

Sufficient appropriate audit evidence

= Sufficiency (量的十分性) × Appropriateness (適切性)

= Sufficiency (量的十分性) × Reliable (信頼性) × Relevant (適合性)

また、入手した素材を監査証拠として採用できるかどうか評価する際、その判断に意識的または無意識にかかわらず auditor の bias (偏向) が影響していないかどうか、professional skepticism を保持できているかを考慮しなければなりません。

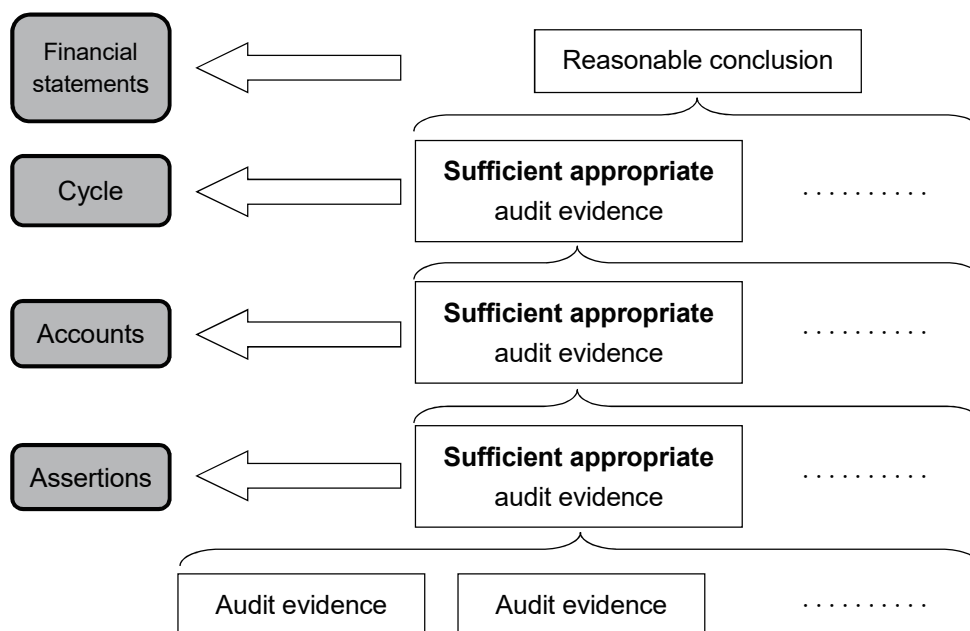
<参考 auditor の bias の例>

- ・ Availability Bias : 入手しやすい素材に偏っていないか
- ・ Confirmation Bias : 最初に思いついた結果を立証するような素材に偏っていないか
- ・ Overconfidence Bias : Auditor の判断や評価を過大評価していないか
- ・ Anchoring Bias : 最初に得た素材に偏っていないか
- ・ Automation Bias : 作成時の状況にかかわらず、コンピューター等で作成された情報を信用しすぎているか

など

## ② Reasonable conclusion の確保

Auditor は、各 assertion について sufficient appropriate audit evidence を入手し、それを account ごと、さらには種々の取引の cycle、financial statements について集約していき、audit opinion を表明するに足る根拠を手に入れます。この **financial statements 全体としての fairness に関する opinion を表明する前提のことは、reasonable conclusion (又は reasonable basis) と呼びます<sup>1</sup>。**



<sup>1</sup> ただし、reasonable conclusion は、すべての assertion が sufficient appropriate audit evidence により立証された時点で直ちに得られるわけではありません。Auditor は、audit の実施過程で検出された financial statements 上の問題点や audit 上の問題点を検討し、個々の assertion の sufficient appropriate audit evidence を総括的に吟味することが必要となるのです。そのうえで、auditor は、こうした問題点を auditor's report において指摘するか否か、どのような opinion を表明するかといった点を決定しなければなりません。こうして、auditor が表明する financial statements 全体としての fairness に関する opinions の根拠として確保するのが reasonable conclusion なのです。

基本問題 1

(1) Which of the following is **not** a type of financial statement assertion?

- a. Rights and obligations.
- b. Fairness and accuracy.
- c. Valuation and allocation.
- d. Understandability and classification.

(2) Which of the following statements regarding evidence is correct?

- a. Time limits are not generally considered appropriate factors in determining the types of evidence to gather.
- b. Cost limits are not generally considered appropriate factors in determining the types of evidence to gather.
- c. The exercise of professional judgment is severely limited in matters related to evidence collection.
- d. The auditor generally has to rely on evidence that is persuasive rather than convincing.

【解答と解説】

(1) (b) Fairness and accuracyは assertion ではありません。なお、その他の選択肢 (rights and obligations、valuation and allocation、understandability and classification) は assertion として正しいものです。

[本問は Becker にある問題です。]

(2) (d) Auditorは、convincing (確信的) というよりむしろ persuasive (説得的な) 証拠に依拠することが必要です。言い方を変えれば、財務諸表の内容は複雑ですので、auditor にとってまったく疑いなく確信的に財務諸表が適正であるといえるようなことはまずないということです。

なお証拠の収集方法については当然、時間的制約 (→選択肢 a) や cost の制約 (→選択肢 b) を考慮しなければなりません。もちろん、時間的制約や cost の制約だけを考慮して、実施する手続・集める証拠を決めるわけではなく、assertion を立証するに足る十分かつ適切な監査証拠を、より効率的に収集できるよう professional skepticism (職業的懐疑心<sup>2</sup>) および professional judgment (→選択肢 c) を用いて、実施する手続・集める証拠を決定します。

---

<sup>2</sup> Professional skepticism (職業的懐疑心) : 常に懐疑的態度 (questioning mind) かつ批判的評価 (critical assessment) をもって audit evidence (監査証拠) に接すること、また auditor の判断に意識的または無意識の bias が影響していないかどうかを考慮する姿勢。

## 2. Audit Procedures (監査手続)

### Example

CAT社の accounts receivable に関する assertions について、どのような検証を行えば、適正かどうか分かるだろうか？



Accounts receivable に関する手続の例をみていきましょう。

- ① すべての accounts receivable を漏れなく計上していること（「実在する accounts receivable があるにもかかわらず、それが accounts receivable account に含まれていない」ということがないこと）
  - ◇ Accounts receivable を計上するもとなった資料（顧客からの発注書や、CAT社から顧客への出荷報告書、顧客への請求書）などと、accounts receivable の明細を突き合わせてみる
- ② 適正な評価がなされていること（回収不能と予想される額については、allowance for doubtful account という、accounts receivable の contra account が適正な額で計上されていること）
  - ◇ Aging が適切に行われていることを確かめる
    - ◇ 期末『後』の入金があることを確かめる
    - ◇ 当期の allowance の金額を過去の年度の金額と比較してみる
- ③ Accounts receivable がCAT社のものであること（たとえば、「債権譲渡により receivable を他社に譲っているにもかかわらず、accounts receivable account に計上されつづけている」とか、「期末『前』に返品されているにもかかわらず、accounts receivable account に計上されつづけている」ということがないこと）
  - ◇ 債権譲渡を行っていないか、担当者に質問してみる
    - ◇ 期末前後の返品について、返品のあった日と accounts receivable を減少させた日に相違がないか調べてみる
- ④ 架空の accounts receivable を計上していないこと
  - ◇ Accounts receivable の相手先に対して、CAT社への accounts payable の額を問い合わせてみる
    - ◇ Accounts receivable の明細と、accounts receivable を計上するもとなった資料（顧客からの発注書や、CAT社から顧客への出荷報告書、顧客への請求書）などを突き合わせてみる

## (1) Audit procedures (監査手続)

**Auditor が audit evidence を入手するために行う手続を、audit procedures (監査手続) といいます<sup>3</sup>。** Auditor が意見表明するために必要な audit evidence は、auditing procedures を実施することによって得られるのです。

代表的な audit procedures としては、次のような手続があります。なお、これらの **audit procedures の中からどれを用いるかは auditor が判断するのであって、SAS によって定められているわけではないことに注意してください** (詳細は、第9章等参照)。

### ① Physical examination (実査)

Auditor 自身が、現物を実際に確かめる (inspection や count を行う) audit procedure です。

### ② Observation (観察、立会)

会社が実施している業務の現場等に auditor が赴いて、業務処理の適否や信頼性、資産の existence 等を確認する audit procedure です。現場視察等のことです。

### ③ Confirmation (確認)

財務諸表項目に関連する情報について、auditor が client (被監査会社) の取引先等の第三者に対して文書により問い合わせ、その回答を直接入手し、評価する audit procedure です。

### ④ Inquiry (質問)

財務諸表に関連する情報について、auditor が management、従業員または外部の関係者に問い合わせ、説明または回答を求める audit procedure です。

### ⑤ Reperformance (再実施)

たとえば従業員と同じ作業を auditor が行い、転記などの正確性を確かめることをいいます。

### ⑥ Analytical procedures (分析的手続)

Auditor がデータ間に存在する関係を利用して推定値を算出し、推定値と財務情報を比較することで財務情報を検討する audit procedure です。

### ⑦ Vouching / Tracing (証憑突合、帳簿突合)

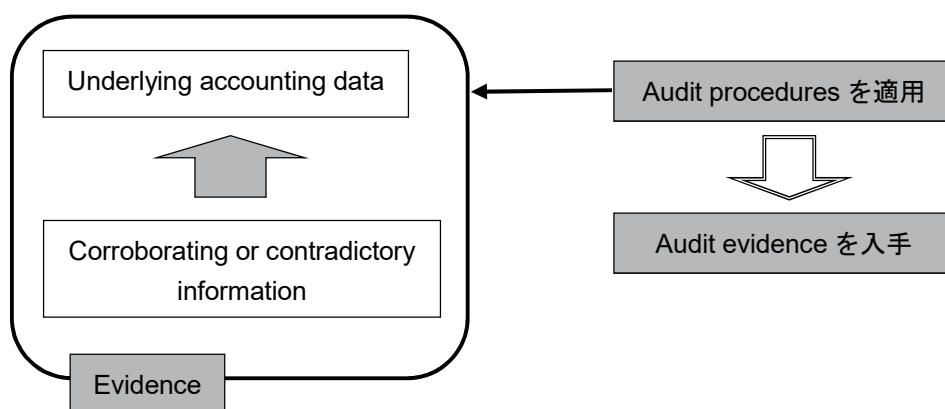
Auditor が会計データとそれを裏付ける証憑書類、もしくは会計帳簿間の照合によって、取引が正しく記録されていることを確かめる audit procedure です。

<sup>3</sup> Audit procedures (acts to be performed) are undertaken by the auditor to obtain the corroborating/contradictory information.

## (2) Evidence の種類

Audit procedures を適用する対象である evidence (証拠資料) は、次のように分類することができます<sup>4</sup>。

会社の financial statements は、数々の source documents をもとに journal entry がなされ、それを ledger に posting し、その上で trial balance から作成されます。このような financial statements の作成過程にあてはめれば、**source documents は corroborating information または contradictory information であり、journals や ledgers が underlying accounting data です。**Auditor は、underlying accounting data だけでなく、corroborating information を企業の内外から収集して accounting data を裏付けることとなります。



	Underlying accounting data (財務諸表の基礎となる 会計データ)	Corroborating or contradictory information (それを裏付ける、または 矛盾する情報)
Physical evidence (物理的証拠資料)		Inventory や PPE 等の現物、有 価証券等
Documentary evidence (文書的証拠資料) ※電子的証拠 (electronic information) を含む	Book (仕訳帳や元帳)	契約書、議事録、請求書など
Oral evidence (口頭的証拠資料)		従業員や management などの 陳述

<sup>4</sup> 厳密には、このほかに calculations by an auditor、third party representations、data interrelationships などもあります。



### (3) 入手される audit evidence の証明力

Assertion の立証に必要となる audit evidence の水準は、assertion ごとに異なり、重要な assertion や material misstatement（重要な虚偽の表示）が含まれるリスクの高い assertion については、より充実した audit evidence を入手する必要があります。

- ◆ Client の支配力の及ぶ範囲外から入手された証拠（外部証拠）は、client の支配力の及ぶ範囲内から入手された証拠（内部証拠）よりも証明力が高い。
- ◆ Auditor が直接入手した証拠は間接的に入手した証拠よりも証明力が高い。
- ◆ Physical evidence > Documentary evidence > Oral evidence の順で証明力が高い（たとえば、property, plant, and equipment の existence は、auditor が直接見て確かめることができるので、証明力の強い証拠を得ることができます）。
- ◆ 有効な internal control（第5章参照）を有する会社の方が、脆弱な internal control を有する会社よりも、会計データや内部証拠の証明力は強い。

Audit evidence の種類別信頼性の度合い			
信頼性	種類		例
高い ↑ ↓ 低い	1. Physical		・ Physical examination により auditor が目視
	2. Documentary	(1) 外部証拠で auditor が直接入手	・ Confirmation letter
		(2) Client が保有しているが外部者が作成	・ Bank statement ・ (購買の) invoice
		(3) Client が保有、かつ client が作成	・ (販売の) invoice
3. Oral		・ 従業員の陳述	

※ 複数の監査証拠が異なる source からもたらされ、同じ結果を示す場合、証明力が高まります。一方、複数の監査証拠が異なる source からもたらされ、異なる結果を示す場合は、その inconsistency を解明するため追加的監査手続が必要になります。

※ Client が作成し、保有する書面の証拠（→上記の表の2. Documentary の(3)）は、その情報が auditor の目的に対し、十分に信頼しうるものかどうかを判断する必要があります。そこでその情報が作成されるまでの手順を検証するなど、情報の正確性 (accuracy) や完全性・網羅性 (completeness) を確かめる証拠を得たり、正確性 (precision) を評価したりするなどの追加的監査手続が必要になります。

**基本問題 2**

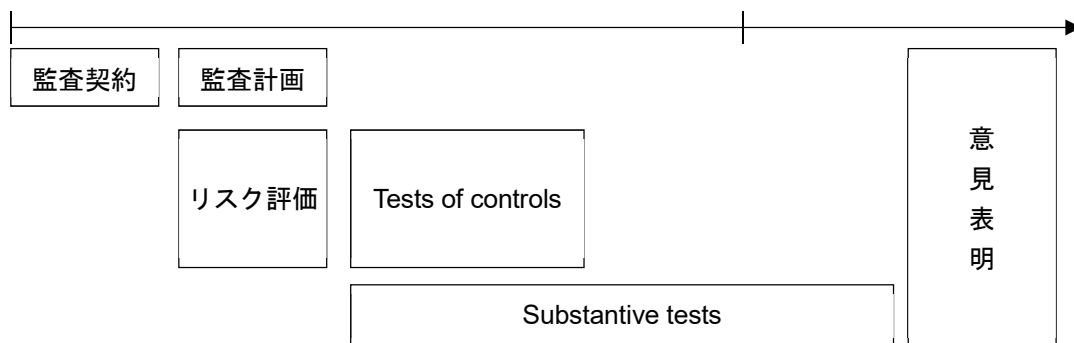
- (1) L. Armstrong, CPA, was concerned about the validity of the evidence he had gathered. Which of the following general guidelines could he follow in evaluating his evidence?
- a. When evidence is obtained from sources independent of the entity, it provides more assurance.
  - b. Internal evidence may not be relied upon, regardless of the effectiveness of the internal control system.
  - c. All evidence obtained by the auditor, both directly and indirectly, is considered more persuasive.
  - d. Evidence obtained from related parties must be subjected to additional tests to be considered useful.
- (2) Of the following forms of evidence available to the auditor, which would be considered the most persuasive?
- a. A letter from the client's attorney.
  - b. A prenumbered sales invoice.
  - c. A copy of the client's monthly bank reconciliation.
  - d. The client's responses to inquiries about obsolete inventory.
- (3) Of the following forms of evidence available to the auditor, which would be considered the least persuasive?
- a. The auditor's assessment and recalculation of the allowance for doubtful accounts.
  - b. Copies of loan documents obtained from the client.
  - c. Prenumbered cash receipt forms.
  - d. Confirmations from customers on account receivable balances.

【解答と解説】

- (1) (a) 外部から得られた証拠の方が、client の内部で作成された証拠よりもより信頼できるものといえます。  
なお、内部証拠も用いられるため b は誤りです。直接得られた証拠の方が間接的なものより **persuasive** ですので、c も誤りとなります。最後に、**related parties** からの **evidence** だからといって他の追加的な手続の実施が必ず「要求される」わけではありません。必要か否かの判断は、**auditor** が行うこととなります。
- (2) (a) **Client** の弁護士からの書面は、外部証拠と考えられるので、より強力な証拠といえます。なお、b、c、d は会社作成のもの（会社内部者の返事）であり、外部者が作成するものより弱いものです。
- (3) (c) 会社内部で作成された入金に関する資料 c は、内部証拠ですので証明力が弱いものです。なお、a は監査人の **direct knowledge** であり **indirect** なものである c より **persuasive** です。b と d は外部者から入手したものであり、内部作成の c より **persuasive** です。

### 3. Audit の流れ

今度は時系列の観点から **audit** の流れ（概要）をみていきましょう。



**Audit** の流れは、おおむね上の図のようにまとめられます。第3章から第6章では、このプロセスを後ろ（意見表明）から順番にみていきます。

## 2. Overview (2) Terminology

<input type="checkbox"/>	1	existence or occurrence	実在性、発生
<input type="checkbox"/>	2	completeness	網羅性
<input type="checkbox"/>	3	rights and obligations	権利と義務
<input type="checkbox"/>	4	valuation or allocation	評価、期間配分
<input type="checkbox"/>	5	presentation and disclosure	表示と開示
<input type="checkbox"/>	6	reasonable basis	合理的な基礎
<input type="checkbox"/>	7	audit evidence	監査証拠
<input type="checkbox"/>	8	sufficient appropriate audit evidence	十分で適切な監査証拠
<input type="checkbox"/>	9	appropriateness	適切性
<input type="checkbox"/>	10	sufficiency	量的十分性
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>			
<input type="checkbox"/>	11	audit procedure	監査手続
<input type="checkbox"/>	12	physical examination / inspection	実査
<input type="checkbox"/>	13	observation	観察、立会
<input type="checkbox"/>	14	confirmation	確認
<input type="checkbox"/>	15	inquiry	質問
<input type="checkbox"/>	16	reperformance	再実施
<input type="checkbox"/>	17	analytical procedure	分析の手続
<input type="checkbox"/>	18	vouching / tracing	証憑突合、帳簿突合
<input type="checkbox"/>	19	source document	原始証憑
<input type="checkbox"/>	20	accounting record	会計記録
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>			
<input type="checkbox"/>	21	overstatements	過大計上、過大表示
<input type="checkbox"/>	23	understatements	過少計上、過少表示
<input type="checkbox"/>	23	underlying accounting data	基礎となる会計データ
<input type="checkbox"/>	24	corroborating information	裏付ける情報
<input type="checkbox"/>	25	contradictory information	矛盾する情報
<input type="checkbox"/>	26	physical evidence	物理的証拠資料
<input type="checkbox"/>	27	documentary evidence	文書の証拠資料
<input type="checkbox"/>	28	oral evidence	口頭の証拠資料
<input type="checkbox"/>	29	material misstatements	重要な虚偽の表示

## 3. Overview (3)

---

### Objectives

本章では、audit report（監査報告書）による意見表明について解説していきます。まずは、audit reportの基本スタイルである標準報告書の記載事項を理解するようにしましょう。

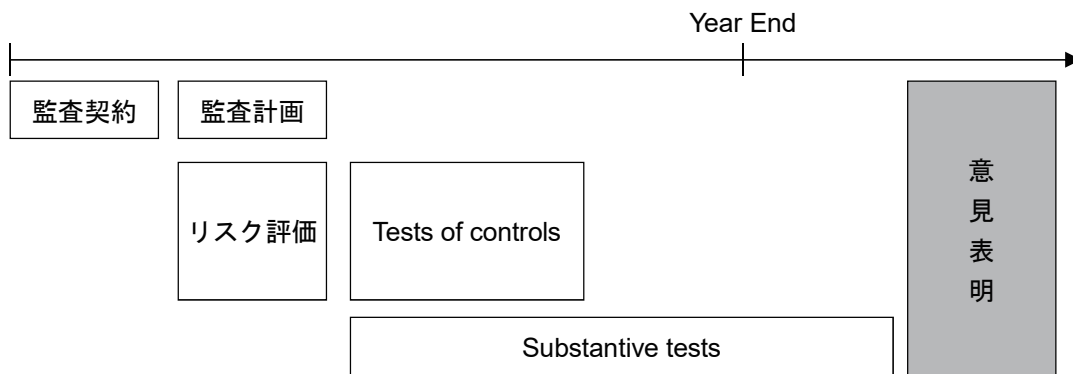
### Key Topics

CORE AUD

#### 1. Audit Report（監査報告書）

## 1. Audit Report (監査報告書)

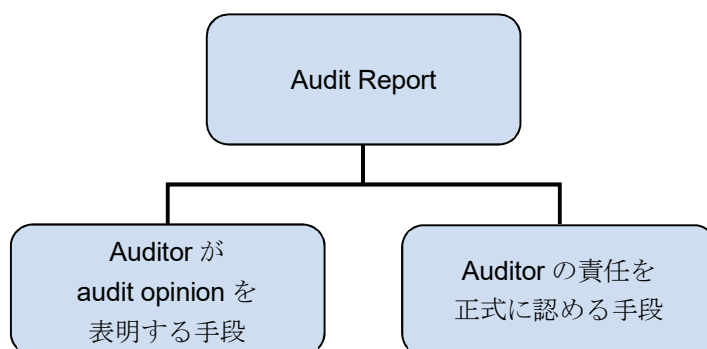
第1章の冒頭において、audit では「④検査、⑤報告」が行われると述べました。そして、第2章では「④検査」の概要を述べましたので、本章では「⑤報告」の概要を述べていきます。



### (1) Audit report の雛形

Auditor が audit opinion (監査意見) を表明する手段であるとともに、auditor が自己の責任を正式に認める手段となるのが audit report (auditor's report、監査報告書) です。

不特定多数の stakeholders が audit report の記載内容を容易に理解できるように、audit report の書式は標準化されています。



### <参考> Audit opinion の種類（詳細は第18章参照）

本章で述べる記載事項は、auditor が必要と認めた audit procedure がすべて満足に実施され、企業の状況を適正に表示していると認める意見の reasonable conclusion が得られた場合の記載事項です。このような場合の audit opinion を unmodified opinion（無修正適正意見）(nonissuer)/unqualified opinion（無限定適正意見）(issuer)とといいます。

しかし、unmodified/unqualified opinion を常に表明できるとは限りません。

財務諸表の重要な一部について、sufficient appropriate audit evidence を入手することができず適否が明らかにならない場合や、misstatement が含まれていることが明らかになることもあります。こうした状況においては、無条件に unmodified/unqualified opinion を表明するわけにはいきません。Auditor は、当該事項が企業の状況に関する利害関係者の判断に与える影響を考慮し、audit report において必要に応じて当該事項を明記することになるのです。

このように、audit opinion の表明によって与えられる保証について、その範囲や財務諸表の信頼性の面で制限を課すための記載は、exceptions（限定事項）と呼ばれます。

Exceptions の原因は、

- 監査実施上の問題（監査範囲の制限—scope limitation）  
（重要な audit procedures を実施することができなかつたために、財務諸表の重要な一部について sufficient appropriate audit evidence が入手できなかった場合）
- 財務諸表上の問題（GAAP からの離脱—departure form GAAP）  
（会計処理・表示に関する GAAP 違反がある場合等）

の2つに区別されます。Exception がある場合には、その重要性により、次のような opinion が表明されることがあります（正確には、disclaimer は、意見の表明を差し控えるという意味です）。

Circumstances	Types of opinion
Departure from GAAP (GAAP からの逸脱)	Qualified opinion（限定付適正意見） or adverse opinion（不適正意見）
Scope limitation (監査範囲の制限)	Qualified opinion（限定付適正意見） or disclaimer（意見不表明）



## (2) Audit report の難形 (Nonissuer) (Unmodified opinion)

### Independent Auditor's Report

[Appropriate Addressee]

#### Report on the Audit of Financial Statements

##### Opinion

We have audited the accompanying financial statements of ABC Company, which comprise the balance sheet as of December 31, 20X1 and 20X0, and the related statements of income, changes in stockholders' equity, and cash flows for the years then ended, and the related notes to the financial statements.

**In our opinion, the accompanying financial statements present fairly**, in all material respects, the financial position of ABC Company as of December 31, 20X1 and 20X0, and the results of its operations and its cash flows for the year then ended in accordance with accounting principles generally accepted in the United States of America.

##### Basis for Opinion

**We conducted our audits in accordance with auditing standards generally accepted in the United States of America (GAAS)**. Our responsibilities under those standards are further described in the Auditor's Responsibilities for the Audit of the Financial Statements section of our report. **We are required to be independent** of ABC Company and to meet our other ethical responsibilities, in accordance with the relevant ethical requirements relating to our audits. We believe that **the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our audit opinion**.

##### Responsibilities of management for the Financial Statements

**Management is responsible for the preparation and fair presentation** of the financial statements in accordance with accounting principles generally accepted in the United States of America, and **for the design, implementation, and maintenance of internal control** relevant to the preparation and fair presentation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, management is required to evaluate whether there are conditions or events, considered in the aggregate, that raise **substantial doubt about ABC Company's ability to continue as a going concern** for [insert the time period set by the applicable financial reporting framework].

##### Auditor's Responsibilities for the Audit of the Financial Statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. **Reasonable assurance is a high level of assurance but is not absolute assurance** and therefore is not a guarantee that an audit conducted in accordance with GAAS will always detect a material misstatement when it exists. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control. Misstatements are considered material if there is a substantial likelihood that, individually or in the aggregate, they would influence the judgment made by a reasonable user based on the financial statements.

(continued)

## 独立監査人の監査報告書

[適切な宛先]

### 財務諸表に関する報告書

#### 意見

私たちは、この報告書に添付されている ABC 社の20X1年および20X0年12月31日現在の貸借対照表並びに同日を持って終了する事業年度の損益計算書、株主資本等変動報告書、キャッシュ・フロー計算書および関連する注記事項の監査を行った。

**私たちの意見では**、この報告書に添付された財務諸表は、すべての重要な点において、ABC 社の20X1年および20X0年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績およびキャッシュ・フローを、米国で一般に認められた会計原則に準拠して適正に表示している。

#### 意見の根拠

**私たちは米国で一般に認められた監査基準 (GAAS) に準拠して監査を実施した。**これらの基準により私たちが負う責任についてはこの報告書の「財務諸表監査に対する監査人の責任」区分で詳述されている。私たちは監査に関連する倫理的な要求事項に準拠し、ABC 社に対する**独立性及びその他の倫理的な責任を遵守することが要求される**。私たちは、**入手した監査証拠が、監査意見を表明する根拠を得るために十分かつ適切である**と信じている。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

**経営者は、米国で一般に認められた会計原則に準拠してこれらの財務諸表を作成し、公正に表示する責任がある。**またこの責任には、不正あるいは誤謬による重要な虚偽の表示を含まない財務諸表の作成と公正な開示に関わる**内部統制の設計・構築・維持を含んでいる**。

財務諸表の作成に際し、経営者は[適用される財務報告フレームワークにより規定された評価期間]にわたり、ABC 社の継続企業として存続する能力について重大な疑義を生じさせるような状況または事象が存在するかどうかを評価することが求められる。

#### 財務諸表に対する監査人の責任

私たちの目的は、財務諸表全体に不正または誤謬による重要な虚偽の表示が存在するかどうかについて合理的な保証を得て、私たちの意見を記載した監査報告書を発行することにある。**合理的な保証とは高い水準の保証であるが、絶対的なものではない**。従って GAAS に準拠して行われた監査により、存在する全ての重要な虚偽の表示が発見されることを保証するものではない。不正は共謀、証拠の偽造、意図的な不計上、不実の表示、内部統制の無視等を伴うため、不正による重要な虚偽の表示は、誤謬による重要な虚偽の表示よりも発見できないリスクが高い。虚偽の表示は、個別にまたは合算して、合理的な財務諸表利用者が財務諸表に基づいて行う判断に対して影響を及ぼす実質的な可能性が存在する場合、重要であるとみなされる。 (つづく)

(continued)

In performing an audit in accordance with GAAS, we:

- Exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, and design and perform audit procedures responsive to those risks. Such procedures include examining, on a test basis, evidence regarding the amounts and disclosures in the financial statements.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of ABC Company's internal control. Accordingly, no such opinion is expressed.<sup>2</sup>
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of significant accounting estimates made by management, as well as evaluate the overall presentation of the financial statements.
- Conclude whether, in our judgment, there are conditions or events, considered in the aggregate, that raise substantial doubt about ABC Company's ability to continue as a going concern for a reasonable period of time.

We are required to communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit, significant audit findings, and certain internal control–related matters that we identified during the audit.

**Other Information [Included in the Annual Report]**

Management is responsible for the other information [included in the annual report]. The other information comprises the [information included in the annual report] but does not include the financial statements and our auditor's report thereon. Our opinion on the financial statements does not cover the other information, and we do not express an opinion or any form of assurance thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and consider whether a material inconsistency exists between the other information and the financial statements, or the other information otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work performed, we conclude that an uncorrected material misstatement of the other information exists, we are required to describe it in our report.

**Report on Other Legal and Regulatory Requirements**

[The form and content of this section of the auditor's report would vary depending on the nature of the auditor's other reporting responsibilities.]

[Signature of the auditor's firm]

[City and state where the auditor's report is issued]

[Date of the auditor's report]

<sup>1</sup> The subtitle, "Report on the Audit of the Financial Statements," is unnecessary in circumstances in which the second subtitle, "Report on Other Legal and Regulatory Requirements," is not applicable.

<sup>2</sup> In circumstances in which the auditor also has a responsibility to express an opinion on the effectiveness of internal control in conjunction with the audit of the financial statements, omit the following: "but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of ABC Company's internal control. Accordingly, no such opinion is expressed."

GAAS に準拠して監査を実施する際、私たちは以下のことに留意する。

- 監査全体を通じて専門家としての判断を行使し、職業的懐疑心を維持する。
- 不正または誤謬による財務諸表の重要な虚偽の表示のリスクを特定して評価し、これらのリスクに対応するための監査手続を設計し、実施する。このような手続は、財務諸表の金額及び開示に関する証拠を試査によって検証することを含む。
- 状況に応じて適切な監査手続を設計するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、ABC 社の内部統制の有効性について意見を表明することが目的ではない。従って、そのような意見は一切表明しない。
- 経営者により採用された会計方針の適切性及び経営者が行った重要な会計上の見積りの合理性を評価するとともに、財務諸表全体の表示を評価する。
- 私たちの判断に基づき、総合的に判断して、合理的な期間における ABC 社の継続企業としての存続能力に関して重要な疑念を生じさせるような状況または事象が存在するかどうかについて結論を下す。

私たちは、計画した監査の範囲及び時期、重要な監査上の発見事項、監査において識別した特定の内部統制に関連する事項等について、ガバナンスに責任を負う者とコミュニケーションを取ることが求められる。

#### その他の情報 [年次報告書に含まれる]

経営者は [年次報告書に含まれる] その他の情報についても責任を負う。その他の情報とは [年次報告書に含まれる情報] を指すが、財務諸表やそれに対する私たちの監査報告書は含まれない。私たちの財務諸表に対する意見はその他の情報を対象としていないため、その他の情報に対しては意見を表明することも、何らかの保証を与えることもない。

私たちの財務諸表監査に伴って、その他の情報に対する私たちの責任は、その情報を読み、財務諸表とその他の情報の間に重要な矛盾があったり、あるいはその他の情報に重大な誤りがあったりしないかどうかを考慮することである。私たちが実施した手続を基に、その他の情報に重要な虚偽があると結論付けた場合、この報告書上に記載することが求められる。

#### 他の法的小よび規制上の要件

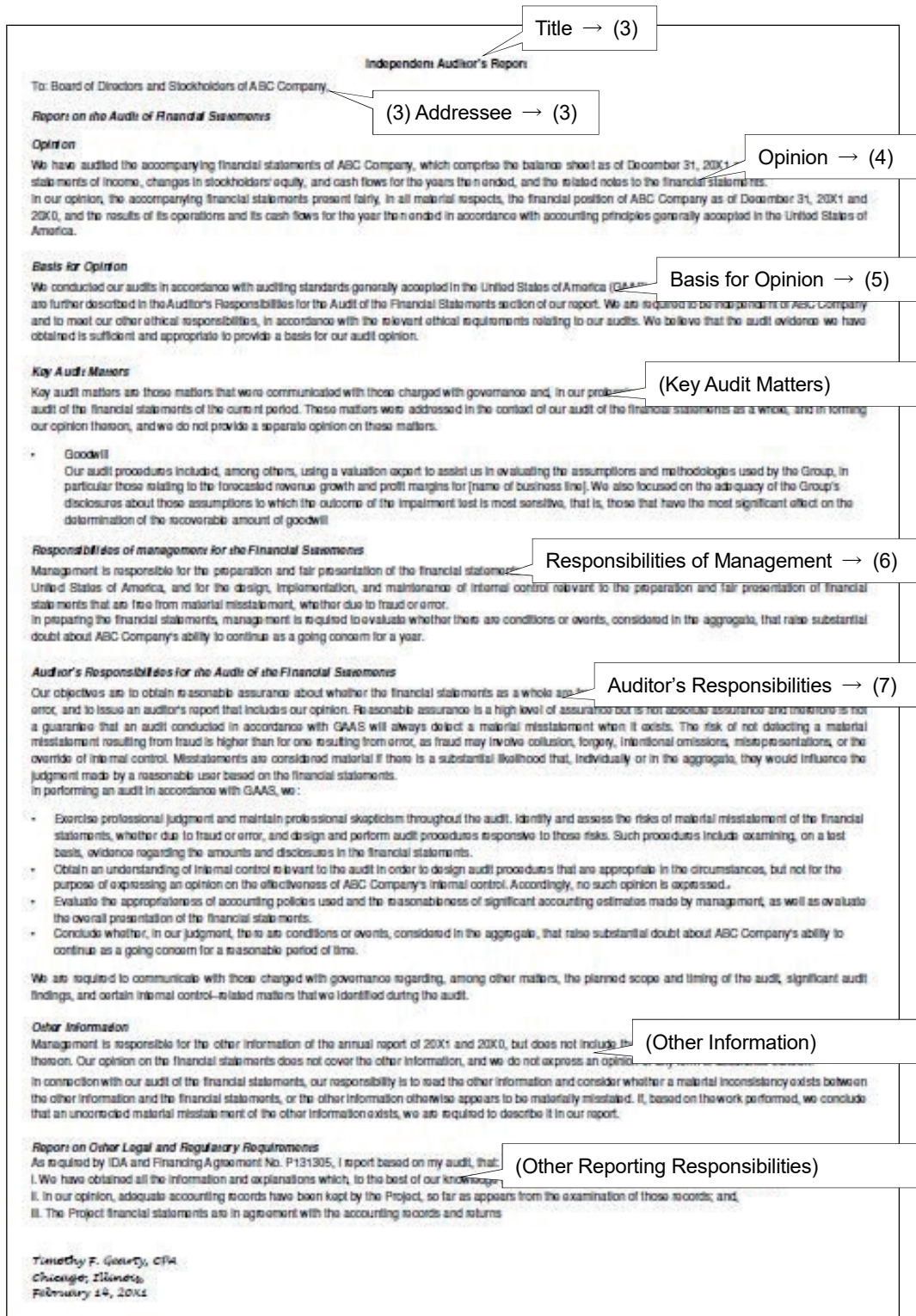
[当セクションの内容および形式は法的／規制上の要件により異なる]

[監査人署名]

[監査人が登録する州又は市]

[監査報告日付]

Audit report の構造 (Nonissuer) (Unmodified opinion)



**(3) Title および Addressee の記載事項**

Title には必ず "Independent" の語を含めます。  
宛先はその engagement に適した宛先を記します。

**(4) Opinion paragraph (意見区分) の記載事項**

Opinion paragraph においては、監査を実施した結果としての監査人の意見が記載されます。

Auditor は、financial statements を適正と認める意見の reasonable basis が得られた場合、management の作成した financial statements が、GAAP に準拠して、企業の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示している (present fairly, in all material respects) と認められることを記載します。

またこの段落では、監査対象となった financial statements の範囲を記載し、保証が与えられる範囲を明確化します。ここで記述するのは財務諸表の範囲のみで、監査の具体的な内容は後の Auditor's responsibilities for the Audit of the Financial Statements paragraph に記載します。

**(5) Basis for Opinion paragraph (意見の根拠区分) の記載事項**

Basis for Opinion paragraph では、先に述べた意見の基となる、監査において準拠した監査基準 (=GAAS) と、その基準では監査人に独立性が求められていることを記述します。

次に、こうして実施した監査手続により意見表明のための十分かつ適切な監査証拠 (sufficient appropriate audit evidence)を得たことを記述します。この記述を通じ、社会的信頼を受けるに足る水準の保証が得られたことを stakeholders に伝達する意味があります。

**(6) Responsibilities of Management for the Financial Statements paragraph (経営者の責任区分) の記載事項**

Responsibilities of Management paragraph では、Management の責任範囲を明確化することで、後述する Auditor の責任との責任範囲の相違を明確にします。

- ① 適用される会計基準 (⇒GAAP) に準拠した財務諸表の作成と公正な開示の責任は management にあること
- ② 財務諸表の作成と公正な開示に関わる internal control を設計 (design)、構築 (implementation)、維持 (maintenance) する責任は management にあること
- ③ 企業として存続する能力に疑義が生じるような状況や事象が存在するかどうかの評価を行うこと

## (7) Auditor's responsibilities for the Audit of the financial statements paragraph (監査人の責任区分) の記載事項

Auditor's responsibility paragraph では、監査の目的と実施した監査手続について記述します。

### ① 監査の目的

- 財務諸表に **material misstatement** がないかどうかの **reasonable assurance** (合理的な保証; 第4章参照) を得て、**意見を表明**すること。
- Reasonable assurance (合理的な保証) とは高い水準の保証であるが、**absolute assurance** (絶対的な保証) ではないこと。
- 不正は collusion (共謀) や forgery (改竄) 等により隠蔽される場合があり、監査人が不正 (fraud) による虚偽の表示を **発見できないリスク**は、誤謬 (error) による虚偽の表示よりも高いこと。
- 監査手続には internal control の検討を含むが、これは audit procedure を設計する目的で行っており、**internal control の有効性への意見表明を目的としていない**こと。
- Material misstatements (重要な虚偽の表示) とは、その虚偽の表示が個別に、または合算して、財務諸表の利用者の意思決定に影響を及ぼすと合理的に考えられる場合をさすこと。

### ② 監査において実施した、GAAS に則った監査手続

- Professional judgment (専門的判断) および professional skepticism (専門的懐疑心) をもって臨むこと。
- 財務諸表上の重要な虚偽の表示のリスクを評価し、その評価に対応できるような監査を計画、実施すること。
- 状況に応じた監査手続を計画するため、内部統制を理解すること (←内部統制に関する**意見を表明する目的ではなく**)
- 適用された会計原則の適切性、および経営者による会計上の見積りの合理性の評価を行うこと。
- 継続企業として存続する能力についての疑義 (substantial doubt about the entity's ability to continue as a going concern) を生じさせるような状況や出来事が存在するかかどうかに対する結論をだすこと。

### ③ Those charged with governance への報告

- 監査の範囲や時期、監査中の重大な発見事項や内部統制に関する事柄について、those charged with governance へ報告することが求められていること。

<参考>

GAAS に言及する段落 : Basis for opinion および auditor's responsibilities

GAAP に言及する段落 : Opinion および responsibilities of management

## (8) Additional topics

上記の standard report は、厳密には「nonissuer について、PCAOB standards 以外の audit standards に従った場合の standard report」です。

**Issuer を対象とした監査では、準拠すべき監査基準は PCAOB となります。**そこで PCAOB standards に則った standard report について、主な相違点を述べておきます。(詳細は第18章参照)

### 【PCAOB standards に則った standard report】

- ◇ レポート構成は **Opinion section と Basis for Opinion section、Critical Audit Matters Section の3つの section 構成**で、**まず opinion を提示**します。(Nonissuer の standard report における auditor's responsibility paragraph と management's responsibility paragraph の記載内容は Basis for Opinion section にまとめて記載されます)
- ◇ 準拠した監査基準 (Basis for Opinion section) は **GAAS ではなく PCAOB** になります。  
"We conducted our audit in accordance with the standards of the **Public Company Accounting Oversight Board (United States)**. Those standards require ……"
- ◇ PCAOB では、1年分の financial statements を公表すればよいのではなく、**比較形式で開示することが求められています (income statement を3年分、balance sheet を2年分)**。このため、audit の対象となった financial statements を複数年分記載することになります。



## 基本問題 1

- (1) The auditor's responsibilities and management's responsibilities toward the financial statements differ. These responsibilities are presented \_\_\_\_\_ in the auditor's report.

	<u>Auditor's responsibilities</u>	<u>Management's responsibilities</u>
a.	Implicitly	Implicitly
b.	Explicitly	Explicitly
c.	Implicitly	Explicitly
d.	Explicitly	Implicitly

- (2) The auditor's standard report refers to generally accepted accounting standards and to generally accepted auditing standards. In which paragraphs do these references appear?

	<u>Opinion</u>	<u>Basis for Opinion</u>	<u>Auditor's Responsibility</u>
a.	GAAP	GAAS	GAAS
b.	GAAP	GAAP	GAAP
c.	GAAS	GAAP	GAAS
d.	GAAS	GAAS	GAAP

**【解答と解説】**

- (1) **(b)** Auditor の責任と management の責任は、ともに audit report において明示されます。
  
- (2) **(a)** GAAS は Basis for Opinion paragraph と Auditor's Responsibility paragraph で、GAAP は Opinion paragraph で明示されます。

**3. Overview (3)  
Terminology**

- |                          |   |   |          |
|--------------------------|---|---|----------|
| <input type="checkbox"/> | 1 | Opinion paragraph   | 意見区分     |
| <input type="checkbox"/> | 2 | Basis for Opinion paragraph   | 意見の根拠区分  |
| <input type="checkbox"/> | 3 | Responsibilities of Management for the Financial Statements paragraph | 経営者の責任区分 |
| <input type="checkbox"/> | 4 | Auditor's Responsibility paragraph                                    | 監査人の責任区分 |

**Principles of Auditing(AU) —Text Vol.1**

2023年6月8日 初版初刷発行

編 者 TAC 米国公認会計士講座

発 行 者 多 田 敏 男

発 行 所 TAC 株式会社

〒101-8383

東京都千代田区神田三崎町3-2-18

印刷・製本 株式会社 日興印刷

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

本書は、「著作権法」によって、著作権等の権利が保護されている著作物です。本書の全部または一部につき、無断で転載、複写されると、著作権等の権利侵害となります。上記のような使い方をされる場合には、あらかじめ小社宛許諾を求めてください。

**Printed in Japan**

For the USCPA Exam

# USCPA

Auditing and Attestation

(AUD) Vol.1

# TAC

For The CPA Evolution,  
Exams Scheduled  
From January 1, 2024  
Ver.6 テキスト



093-1229-1020-18

 **BRADLEY**  
University